

数専会だより

2003年 10月

東京女子大学
数専会
同窓会

総会報告

平成十五年六月七日(土)
於72年館一階
議題

- 一、一般報告
- 一、決算及び予算
- 一、会計監査
- 一、夏季研修会について
- 一、その他

一般報告

*各部報告

詳細は6頁の通り。

決算及び予算

詳細は6頁及び別紙の通り。

会計監査

承認された。

夏季研修会について

今年も昨年同様、生産性国際交流センターで下記の通り行われる旨の紹介と参加勧誘をした。

その他

*パソコン

そろそろ新しい機種への買い替え時であるが、パソコン教室も含めて検討していきたい。レンタル、リース制度も比較し、今後のあり方を考えていく。メールによる情報通信の拡大による通信費の削減、地方の方への還元など、必要性、妥当性があれば、投資してもよいと思われるが、一方で一部の入達だけの利益になってしまつたのであれば、費用を抑えていかななくてはならないだろう。今後の課題である。

夏季研修会

平成十五年七月二十六日(土)
二十七日(日)

於 生産性国際交流センター

(葉山町湘南国際村)

*今年も昨年同様、葉山町湘南国際村で行われました。

今年も新しい参加者が多く、日帰りを含めて七十二名の大盛況でした。

プログラム

七月二十六日午後

「多項式の不思議」

東京工業大学大学院

理工学研究科教授

石井志保子 氏

二十六日夜

懇親会

七月二十七日午前

「健全なボケは健全な趣味に宿る」

創価大学生命科学研究所

免疫科学部門教授

渡邊 里仁 氏

「多項式の不思議」

東京工業大学教授 石井志保子氏 (S48)

講演要旨(石井志保子氏からの寄稿)は第3頁にあります。

「健全なボケは健全な趣味に宿る」

創価大学生命科学研究所教授

渡邊 里仁 氏

『2頁掲載の今北様の文がすでに見事な講演要旨となっていましたので、感想文といたします。』

私は、医学研究の専門分野では中枢神経に感染する神経病原性ウイルス

による神経病変の成り立ちを明らかにするというのがテーマに取り組んできましたが、本業とは別に、オペラの台本を書いたり、コンサートを企画したり出演したりという活動もしております。このコンサートを前に来られた方から、オペラの話でも、唄ってもらってもという型破りな講演依頼を頂いて、健全なボケは健全な趣味に宿る」という伝統ある数専会の研修会としては一風、趣の異なつた題名でお話をさせていただきました。同じような講演を、私が在任します調布市で行つたところに母が聞きに参りまして、講演の中で「ボケ、ボケ」と繰り返して出てくる言葉にだんだん腹が立つてきたと、ボケに敵しいツツコミを入れられてしまいました。やはり、ボケという言葉は、どんなに言葉を尽くして説明しようとしても、恐怖心さえ伴うネガティブな印象をもたれてしまうようです。「備えあれば憂いなし」とまではいなくても、積極的に準備をしておけば必ず訪れ来る衰えはカバーできます。ボケをすらすらポジティブに受け止めていたきたいというメッセージがお伝えできたかどうか気がかりです。気がかりといえは、講演終了後、次から次からたくさんのご質問を頂きました。予定が詰まっておりますので十分にお答えできなかつたことを気にしています。時間がなかつた質問の手を上げそなつた方々も会場におられたはず。舞台の上からお客さんの様子を観察する習慣があり、そんなお姿もいつい見つけてしまいました。機会がありましたらお茶会のような形で罪滅ぼしが出来ればと考えています。ご質問の中に、アルツハイマー病などの痴呆も老化が早く来ただけで、病気と考えるのはいかかなものか、という

非常に重い問いかけもありました。病氣と認識して対応的的確な治療を早めに始めれば進行を遅らせることが出来ることや、何より同居する家族の方々の気持ちや納まり、行政や社会の援助も受けやすくなるなどとお答えしましたが、短い説明ではご納得頂けなかつたような様子。他にも、方向音痴の方がその場所に咲いている花を見ると方向の感が甦るのはどうしてかとのご質問。それが、関連付けによる記憶で、神経のネットワークが動いている例とお話しましたが、確かに説明不足の答えでした。講演の中でご紹介した私の父の著書「生命のリズムの10章」の中に関連したエピソードが載っています。旅行に行くときにはスケッチブックを帯同するという話です。その場で描いたスケッチブックを後で見ると、そのときの状況が描いた景色とともに想起されるということ。私にも経験があります。ドイツに留学中、あるご家庭に妻がドイツ料理を習いによくお邪魔していました。妻とその家の奥さんが2人で料理をしている間、私は近くの丘で絵を描いていました。その絵を見ると、その日に出されたジャガイモパンの味や、当時まだ10歳だったその家のお子さんが絵を見て「すごい、すごい」と飛び跳ねながら褒めてくれた状況や、その日のお天気のことまでを思い出します。もう20年前のことです。写真ですとそうは行きませんが、自分が興味を持った事象、或いは創造性を伴った行動をしたときに関連付けられた記憶はその人の宝物になります。

三浦半島の初夏の穏やかな日差しに包まれて、参加された方々のお顔は生き生きと輝いていました。興味や好奇心を持ってあのような研修会

に参加されるような方々は、大丈夫、神経細胞のネットワークは更に楽しい記憶と新しい記憶のハーモニーを奏で続けるでしょう。南フランスを思い起こさせる爽やかな光の中で、「プロバンスの陸と海」、気持ちよく歌わせていただきました。ご清聴有難うございました。

「特異点との出会い」

田辺由美子 (S48)

「数値的多項式から特異点へ」というサブタイトルがつけられた石井さんの講演会は、数学の世界にかなり縁遠くなつた最近の私にとつて、少し難しいけれど久しぶりにわくわくと、興味深く聞かせていただきました。48年卒の同期生8人も、折角顔をあわせるのだからと、早めに集まり、ランチタイムでは昔話に花を咲かせておりましたが、講演が始まると数年前(?)の学生時代にすぐ戻り、真剣な眼差しで聞き入りました。前半は、一般的な関数の説明に続いて、関数の一つである数値的多項式の定義と具体例が示され、その後一般的な形での定理・証明が展開されていきました。数式だけでなく日本語のまじった板書とわかりやすい丁寧な説明に、久しぶりの緊張感を味わいながらも、かなりわかつた気分での休憩となりました。後半が始まると、いよいよ本題の「多様体における特異点」へと、話が佳境に入りました。数式や2次元3次元の美しい図の入った資料も配られ、できるだけ平易にと、解説に骨を折っていただいたにもかかわらず、話が抽象的になるにつれ、恐れていた通りだんだん霧が深く立ち込めてきました。数学の講義についての感想文を、

とのことでしたが、数学の定義・定理・証明にどのような感想がふさわしいのだろうか、なんて考えだした

ら筆が一步も進みません。数学の論理が頭の中で構築できたときの感動はさぞかしすばらしいだろうな、と思ったり、どの部分からわからなくなつてしまつたのだろう、と自己分析したりしているうちに、数学にこだわらずに、今回のテーマである特異点について考えてみようと思ひつきました。

特異点とは「とにかく他とは際立つたもの」のことであり、特異点に現象の本質が隠れていると考えられる、ということは、身の回りの重要な問題を解決するときにも、特異点を調べるのがとても重要になってくるわけです。おそらく、無意識のうちにもこのような作業を行い、問題の糸口をつかんでいるのではないのでしょうか。数学の研究成果が、他のいろいろな分野での問題解決のアプローチに役だっている、ということに思いを馳せると、特異点の魅力がおぼろげながら浮かんでくるような気がします。

石井さんが講演会の最後におっしゃつた、「大学で数学を学んだ私達には今日の内容が理解できなくても『数学のシンパ』にはなれる」という言葉が印象的でした。数学を愛し折に触れそのすばらしさを伝えてほしいと理解したのですが、美しくすばらしく、そして愛すべきものには、たとえ霧の中でもなにかを感じ取ることができると、思えるようになりまし。

今回の講演会がきっかけとなり、数専会の夏季研修会に初めて参加させていただきました。青い空と海、遠くに江の島が見える緑豊かな研修センターで、熱意溢れる諸先輩の方々と同期の仲間と勉強する機会を得て、大変有意義な一日を過ごすことができました。どうもありがとうございました。

「健全なボケは健全な趣味に宿る」を伺つて

今北 信子 (S50)

湘南国際村、生産性国際交流センターは、相模の海、江の島、御用邸、葉山の町、両側からせまる緑の小高い岡、美しい景色を眼下に望み、心地よい風も感じられます。七月十七日、渡邊里仁先生の御講演が始まりました。颯爽とタキシード姿で演壇に登場されて、エンジ色のベストとネクタイがお似合ひでした。プロジェクターと白板を使いながらのわかりやすいお話は、温かなお人柄と実際に在宅介護、在宅医療に携わつていらつしやいます。御研究をあらわしたものでございました。誰しも避けては通れませんが問題だけに、一同熱心に聞き入りました。

「良性老人性モの忘れ」、「悪性健忘症」と二つに分けて御説明下さいました。脳血管性の痴呆は、血管系の管理でかなり防止できます。血管系を大きく上下させない注意再確認致しました。たくさん神経原繊維の変化と神経細胞の網目、すなわちシナプスの作成が今後の鍵となりまわすことがよくわかりました。それぞれの年齢に大切な素地を増やし、受容アンテナをたくさん持つ重要さを痛感致しました。使えませす記憶のしまい場所をあちこちに分散し、普段から統合する活動をしなければならぬようです。それには創造性ある趣味をしましよと嬉しいお言葉でした。アルツハイマー型老年痴呆の発症において「陳述記憶」、「非陳述記憶」の片方がなくなつてしまつても、新しいネットワークを持つていますと記憶維持可能とお聞きして希望がわいて参りました。しめくくり、生命のリズムをお話になつてくれました。

皆様学生時代には少なからず自信を持つていらつしやいましたことと思われませす記憶力に、ふと驕りを感じ不安にかられました時がございま

したことでしょつ。私もその一人でございますが、この度の講演を伺いまして、趣味という域までいりませんでも、日々の見過ごしがちなことにも心を、プラスの脳の活性化に心掛けたいものと思ひました。お陰様で大変有意義で貴重な時間を過ごすことができました。誠にありがとうございました。

御講演後、モーツアルト作曲、歌劇「魔笛」より「鳥さしの歌」を独唱して下さいました。渡・信子様の前奏、伴奏、間奏と息もひたりと、奥様の内助の功光つていらつしやいました。アンコールにはヴェルディ作曲、歌劇「椿姫」より「プロヴァンスの海と陸」を朗々とお歌いになられて、拍手喝采で幕がおりました。最後になりましたが、このように素晴らしい講演会を毎年、企画、運営して下さいます数専会の皆様にご心より感謝申し上げます。

石井優子氏のプロフィール

東京工業大学大学院理工学研究科 数学専攻 教授
〔略歴〕
岡山県高岡市出身
東京女子大学数理学科卒業
1988年 九州大学理学部助手
1988年 東京工業大学理学部助手
1988年 東京工業大学理学部助教授
1988年 東京工業大学大学院理工学研究科教授
研究科教授
(一)の問 Johns Hoki の 大学客員研究員 Max Mack 研究所客員研究員
Tango 大学客員教授
〔著書〕
「専門」代数学何学、特異点理論
「特異点入門」シュプリンガー東京 (1987) 大学院生用教科書
「特異点 その形式と美」
「現代数学の展望」上野健爾 志賀浩一、砂田利一編、日本評論社

(2001) の中の一章
論文は Journal of Algebraic Combinatorics, Mathematische Annalen, Compositio Mathematicae 等に発表
その他、雑誌「数学セミナー」や「数学の楽しみ」(日本評論社)に時々エッセイなどを掲載

渡邊里仁氏のプロフィール

昭和四十九年慶應義塾大学医学部卒業
同年慶大医学部病理学教室に入局し神経病理を専攻。西ドイツ、ヴュルツブルグ大学医学部ウイルス研究所専任研究員、国立精神・神経センター神経研究所室長を経て平成三年、創価大学生命科学研究科免疫科学部門教授。同時に平成三年以来十年以上に亘り土曜・日曜日を使い、在任する調布市深大寺近辺の寝たきり老人の相談にのり、患者にとつてより快適な在宅介護・在宅医療の道を模索している。
日本にオペラが根付くためには、日本語によるオペラの創出が必要であるという思いから、作詞や訳詩オペラ台本も手がけ本年十月四日に調布市「たづくり」で、創作オペラ「夜叉蜘蛛」(渡邊里仁台本、中島はる曲)の上演を企画

夏季研修会に参加して

水谷 晶子 (S23)
逗子の海は美しかった。昼も夜も朝も。広い会場で、初めての車椅子が有難かつた。
お講義は私の緩んだ脳を刺激し、趣味の域を遥かに超えた先生の歌に感動。下級生の方の車に乗せて頂き、日陰茶屋で昼食。鏡摺の不整合の不思議を見学。駅まで送って頂いた。優しさに囲まれ楽しく有意義な一日間でした。

支部が出来て思うこと

01年02年埼玉支部長
坂井 艶子 (S23)

埼玉支部が結成されてから、六年目を迎えました。埼玉は東京近郊といつこともあって、長いこと支部を必要としませんでした。

私も卒業してから五十年余にもなるというのに、母校を訪れたのは、園遊会当日に開催された級会位で、同窓会活動についても無関心でした。ところが、支部が結成されてお手伝いをするようになってみると、同窓会本部役員の方々の熱意と、現在母校のおかれていた状態を知り、無関心のままではいられないことを知りました。

しかし、一人々々で何が出来るのでしょうか。何をしたらよいのでしょうか。埼玉県内には約三千人の同窓生が住んでいます。近所に住んでいても、会話がなければ同窓生と気が付かずにいます。これでは母校についての会話を持てませんし、力を合せることも出来ません。世代を超えて交流できる支部は、矢張り必要だったのです。専攻は違っても共通の話があります。思春期に静謐な雰囲気の中で自己を見詰め、人生についての思索の時を与えて頂いた母校への感謝を、一緒に支援する力にしていきたいものです。

関数解析の興味

早川希子 (S42)

いつのまにか高村ゼミも研究部の勉強会の最古参になりました。

一 先ずは、高村先生の近況から平成十三年二月初め、先生は脳梗塞を起こされました。外出先で体に不調を感じ、急いで帰宅し、杏林大医学病院に行き、そのまま入院されま

した。幸いにも、比較的軽い症状で治まったようで、一ヶ月後にはリハビリに良い病院に移られ、一人で外出できるまでに回復されました。そして、四月十七日のゼミにはお出で下さり、一同、驚き、感激し、そして安堵致しました。左の手足に後遺症があり、御不自由との事ですが、講義、板書は勿論、パソコンを駆使され、TEXを使ってゼミの為に素晴らしい補足用テキストを用意してくださいます。「リハビリになりましたから。」と、さらりと云ってくださいます。その後、冬に、関節に痛みが生じ、膠原病の疑いがあるとの事で、薬を服用されているとの事ですが、ゼミには勿論、都内へはお一人で出かけられる様です。

二 ゼミへのお誘い
本年五月から高村先生の著書「関数解析入門」(朝倉書店)を読み始めました。「基礎知識を広く」という先生の指導の下に、いろいろな本を幅広く読んでまいりましたが、最近、月一回二時間のゼミでは一冊の本を読み上げるのに三年近くかかります。少々ハードルは高いけれども、今回は先生の御著書を読むことに致しました(先生の補足講義を大いに当てにしています)。

導入部として第一章序論を先生に講義していただく事に致しました。第一期は、本では既知としている位相空間の定義の説明と基本的な事項の証明を徹底的に付けて下さいました。

関数解析に興味のある方、久しぶりに高村先生の講義を受けたい方、等々、どうぞ一度定例会をのぞいて見て下さい。現在メンバーは七、八人です。「継続は力なり」とはなかなか言いきれないのですが、「せめて共感したい」をモットーとして続

けています。
三 定例会は、毎月第三火曜日、十時から十二時、武蔵野公会堂、第五会議室です。

国際数学オリンピック

日本大会が開催されて

大島 治美 (S52)

七月七日から十八日にかけて第四十四回国際数学オリンピック大会が代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。この大会は一九五九年にルーマニアの主催で東欧六カ国とソ連を招待して第一回が行なわれ、以降毎年参加国の持ち回りで開催されてきました。日本の初参加は第二十一回中国大会からで、数学オリンピック財団によって日本代表の六名の選手を選抜試験が行なわれていました。今大会では八十二の国と地域から四百五十八名の高校生以下の数学好きの若人が参加し、数学の問題に挑戦しました。

コンテストは二日間、一日に三問を午前九時から午後一時半までの四時間半かけて解きます。選手は自国語に翻訳された問題を自国語で解答し、各国の団長が自国の答案を採点します。その後開催国の調整委員と協議して得点を決定します。一問七点満点で、採点基準により部分点が与えられます。数学の場合、他国語であっても答案を見ればできていくかどうか大体わかるようです。

採点の間、選手達は国際交流や観光のプログラムを楽しみます。折紙や書道、浴衣の着付など日本文化を紹介するコーナーで私も手伝う機会がありました。日本に対する関心は高く、興味を持って色々質問している姿が見られました。各国に一名ずつガイド(早稲田大の留学生や東京外語大の学生等)が付いて期間中行

動を共にしていました。東京女子大の卒業生で、牟礼キャンパスの英語講座を受講している方々も多数みえて、受付や役員達の通訳として活躍して下さいました。富士通等からの寄付を得て、元早稲田大教授で数学オリンピック財団理事長の野口廣先生を中心に多くのボランティアの協力で実現した日本大会でした。

表彰式は、皇太子殿下、遠山文部科学大臣が列席されて盛大に行われました。メダルは金銀銅の割合が一対二対三で、参加者の約半数がメダルを手に入れます。息子は第四十回ルーマニア大会から連続五回出場となり、今回五個目の銀メダルでした。皇太子殿下の「数学が得意だったとは言えませんが、苦労してやっと問題が解けた時の喜びは格別でした。」というお言葉が心に残りました。最後に、今回出題された問題を一つ紹介します。

「次の値が正整数になるような、正整数の組(a, b) をすべて求めよ。」

「テクノロジーを活用した数学教育ワークショップ」報告

数学教室助手 杉山 真澄 (S44)

2003年8月21日(木)~22日(金) 東京女子大学 9-102教室で行われました。

[1] 小林一章(東京女子大学教授) 情報技術の発達により学生・生徒たちの環境は非常にスピードで変化してきています。考える力があれば伸びることが出来る。数学を学ばせ、修得させるためには繰り返し練習など時間的余裕が必要です。現代数学

の中で結び目が高分子化学の中でのように抽象化されて考えられるものかを例示された。

[2] 杉山真澄(東京女子大学) 人間は情報を五感のうちの視覚から60%得ているが、必ずしも正しい情報を視覚から得ていない。たとえば実際には同じ長さであっても違って見えるもの、実際にはないのにあるように見えるものなど、錯視のたくさん例があるからである。リマン面、フラクタル、カオスの奇妙できれいな絵は、複素数の世界であることを紹介した。

[3] 佐藤しずよ(東京都立昭和高等学校) 数学Cの行列の積や掃きだし法で連立方程式・逆行列を求めることを、グラフ電卓によって計算する。掃きだし法の操作法やプログラムまでできることの実例をあげられた。

[4] 植野美穂(東京学芸大学教育学部附属高等学校大泉校舎) 現実社会の中にある行列の具体的な数学的処理方法のたくさん例をとりあげ、行列のよさ、抽象化された高次の行列を計算することにより数学が活用されていることが紹介された。

[5] 中込雄治(東京都立南多摩高等学校) 一つの定理を証明するのに、いかに多様に考えられるか、その具体的な方法を「point」という図形ソフトにより教えることで、生徒自身でアイデアを独自に考えられるようになったかの実践記録が紹介された。

[6] 武山洋一郎(東京都立田柄高等学校) 数学が必須の工業高校で、分数も出来なかつた生徒に高校数学の習熟

を促すための取り組みが紹介された。

目標のひとつである微積分の学習を、習熟度によるクラスわけと少人数教育とテストでの部分点での得点などの工夫により達成されてきたことが紹介された。

[2] 中澤居紀 (Nobuo, Inc.)
振り子の振り具合を距離センサーで、距離を縦軸、時間を横軸にとりデータを得る。きれいな周期的グラフから、周期的なグラフであるサイン曲線の係数を決めてあてはめると実によく重なる。また微分の定義によるグラフを描かせるとサインのグラフが得られる。実験で体験して納得のできるものでした。

[3] 茶園幸子 (お茶の水女子大学附属高等学校)
2つのベクトルを通る直線のベクトル方程式の表し方と、線分のm対nに内分、外分の式を使うと2つのグラフを一方から他方へ徐々に変化させることができる。この考えはアニメーションなどに使われている。ベクトルと内外分の比の実用となる面白い例でした。

[4] 根岸靖 (豊島岡女子学園中学校)
中学校で「 π 」と「 π 」より上位機種種の電卓をどのように使っているかの実践例で、2次関数の例と「 \sin 」を使用して数学Aの座標と図形の面積の関係(ピクスの公式)についての考察の仕方を紹介された。中学3年生(1クラス45名5クラス)に連続5時間おこなった受講生と担当者のアンケートも紹介された。

[5] 杉山
今年の夏の話題である火星大接近に関連した数学的考察で、膨大な角度だけのデータからいかに火星の軌道を計算するか、地球から火星を見ると逆行現象が起こるのはなぜか、動きをベクトルを使って式をたて

グラフ化することにより見えるものを紹介した。また、地球の周りをまわりながら太陽の周りをまわる月の動きを式とグラフでその様子を見ました。

東京、千葉、埼玉、神奈川の近県だけでなく群馬、栃木、新潟、大阪からの80名を超える参加がありました。数専会の方々も多数きていただきました。自分の母親よりも年配の方々の熱心な様子に、生徒にその熱気を伝えたいと若い女子高校の男の先生が言っておられました。ご支援ありがとうございました。

高等学校新設教科「情報」について

横浜高等学校講師
塚本典子 (S44)

2003年度から高等学校で、必修教科となった教科「情報」について、教育現場で、教える立場から紹介したい。カリキュラムについては普通高校で採用されている教科「情報」に基づいている。

一 教育目標

普通教科「情報」の目標は学習指導要領によれば、「情報および情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報に関する科学的な見方を養うとともに、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる」ことで、ワープロソフトや表計算ソフトなど市販のコンピュータソフトを単に使いこなすことだけを目指した授業や、これまで机上で行ってきた数学のドリル問題をコンピュータ化するようなものではない。また、コンピュータの構造を高度に教える電子工業的な授業や、情報関連の資格を取らせる授業でもな

いことは明らかである。

二 教科A、B、C

「情報A」 情報活用の実践力を高め、情報の科学的理解を育成し、体験的に情報社会に参画する態度を育成。実習時間が2分の1以上
「情報B」 コンピュータの仕組みやコンピュータを活用した問題解決を通して情報の科学的理解の育成。実習時間が3分の1以上
「情報C」 情報の表現方法やコミュニケーションについての学習、実際の調査活動、情報社会の理解を通して、「情報活用の実践力」を養うとともに、「情報社会に参画する態度」の育成。実習時間が3分の1以上

一単位一科目選択で、生徒の興味・関心などの差、情報教育の履歴の差を考慮して選択するのが望ましい。

三 授業内容・注意点

横浜高校の「情報B」の授業内容は次のようである。

- (1) 基本操作の習得(コンピュータの基本操作、日本語入力、表計算、インターネットを使った情報検索)
- (2) 応用技術の習得(画像処理、動画編集、音声処理)
- (3) 問題解決とコンピュータ(モデル化、シミュレーション)
- (4) コンピュータのしくみ(ハードウェアとソフトウェアの基本)
- (5) 情報社会に参画する態度(ネットワーク社会のモラル、プライバシーの保護、セキュリティ、著作権法、情報格差)
- (6) 総合実習(関連のある情報を集めて利用しやすいように加工し、新しい情報を作り出す。グループ学習が原則で、プレゼンテーションソフト、ホームページ作成ソフトを利用し、情報発信をする)

教師はコンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎的な知識、画像処理、動画処理、音声のデジタル化について、情報技術の知識が必要であり、グループ学習を進める上で、教育工学・教育心理学的な知識も必要である。プライバシーの保護、情報発信の責任についての知識なども要求される。

従来、横浜高校では、コンピュータシステムとネットワークシステムの維持・管理は授業と並行して教員が担当していたが、「情報」が必修科目となり内容も高度・多岐にわたり、高度なシステムに対応するため、専門家にまかせている。また、業務連続、年間指導計画、教材等の共有も「 π 」上で、行っている。

従来、高校におけるコンピュータ教育は、教員免許所持者の中で、教えられる教員が行ってきたが、「情報」が正式な高等学校の教科として新設されたため、「情報」の免許証が新たに必要になる。「情報」の免許の取得には、各都道府県の教育委員会が主催する「現職教員に対する講習会」に参加するか、文部科学省の「資格認定試験」に合格するか、大学の「情報」の教職課程を履修することが必要になる。教職課程の履修は大学の通信課程の「資格等単位認定課程」を履修することも可能になる。

四 「情報」教員免許について

私は、昨年度佛教大学の「高等学校情報免」の通信課程を修了し、2003年3月免許証を取得した。

五 「情報」のこれからの課題

本年度から教科「情報」が本格的に実施されるようになったが、はやくから、「高等学校段階における情報教育カリキュラム」の開発に携わっていた西之園晴夫先生(佛教大学教授、情報免課程教科教育法担当教授)が、日本教育工学振興会の

2003年の会報に「新しい教科が設置される」ということはめったにないことなので、学校現場からの熱気が伝わってくるかと思っていたが、どうやらきわめてさめた気分を迎えられたようである。進学校では厄介な科目であると考えられているようである。情報教育の導入が高等学校の教育を変革するようなインパクトをもつことができなかつた」と書かれている。これは、「情報」の学習指導要領の根底にある考え方が、現在の大人たちが作った情報社会に生きていくことを期待するものであつて、旧態然とした産業振興や科学技術信仰のための情報伝達型であり、当初期待されたような知識創造型でなくなっていることへの警鐘である。「情報」が教科として、認知され、定着していくための課題となるであろう。

参考文献

- 「情報科教育法」大岩元他オーム社
- 「インターネット時代の教育工学」1 岡本敏雄編 森北出版
- 「高等学校学習指導要領解説 情報編」文部科学省
- 「高等学校情報A、B、C 教科書」

* 通信費

の納入に協力ください

今年通信費(平成十五、十六年度分二千円)を納入する年です。この数専会だよりをお送りする時に、振込用紙を同封いたしますので、卒業生を明記の上郵便局からお振込みください。すでにお払いになった方、及び免除の方には用紙が入っておりません。数専会が今後も活発に活動するための大切な資金です。ご協力をどうぞよろしくお願いたします。

【厚生部から】

厚生部では皆様の求人、求職のお手伝いをしております。平成十四年度の活動状況を報告いたします。

*教職関係

専任教員 30件(成立なし)
 時間講師 14件(成立1件)
 コンピューター関係、家庭教師の求人はありませんでした。教職関係の求人は、杉山先生と数専会の方から頂きました。求人、求職のご希望の方はご連絡下さい。数専会ホームページの厚生部求人情報もご利用下さい。

TEL x x x x x x x x x x
 原田 秀子(S29)
 TEL x x x x x x x x x x
 菅沼 綾子(S34)

【庶務部から】

庶務(住所管理担当)からのお願い

一 通信費の振込みには必ず卒業年を書いてください(同姓同名があります)。和暦・西暦どちらでも結構です。
 二 転送された手紙を受け取られたら新住所をご連絡下さい(転送期間は一年です)。
 三 改姓・住所変更などは数専会HP・会長FAX・葉書などで必ずお知らせ下さい。

四 クラス会開催等で住所が必要な時は、ご連絡下さい。
 TEL x x x x x x x x x x
 兼俊 充子(S30)
 TEL x x x x x x x x x x
 山田 洋子(S41)

【研究部から】

現在九つの勉強会が開かれています。東京中心の教室が多いのですが、少しでも多くの方が参加できるように方式を模索中です。

勉強会の内容も数専会だよりで序々にお知らせしたいと考えています。今号では、高村先生ゼミを紹介しています。

数学ゼミ(特に高校数学)の講師をお願いできる方、地方で活動している自主ゼミの情報等いろいろの御意見、御希望をお寄せ下さい。

TEL x x x x x x x x x x
 菊地 弘子(S22)
 TEL x x x x x x x x x x
 高山干津子(S41)

今年の夏季研修会参加者は、日帰りを含め73名でした。例年のようにアンケートをとりました。結果は次の通りです。

アンケート回答数 45
 (複数回答を許す)

- 一 講演について
 - 石井先生の講演
 - 久し振りに数学にふれて面白かった。後半の難しい話もわかりやすくお話しさってよかった
 - 「才色兼備、天は二物を与えた!」渡・先生の講演
 - 老後のために有意義なお話でした
 - ご夫妻の息の合った共演が素晴らしいかった
- 二 来年の開催地について
 - 今年と同じ国際村 2
 - 交通の便利なところ 2
 - 場所はどこでも個室が良い 8
 - 都心のホテル、箱根、神戸三宮 4
- 三 来年の企画について
 - 来年度の企画について 3
 - 日曜日をはずして欲しい
 - 数字を楽しむテーマ、数学教育に

関する話
 ・色々変化に富んだ講義、講師
 ・数専会会員で社会的に活躍している人、会員のご夫君、兄弟姉妹等の関係者
 ・東京女子大学関係者

四 その他の意見
 ・夜の話合いについて
 ・もう少し準備して、司会進行を上手にして欲しい
 ・結論が出なかつたが皆が一生懸命考えた時間は有効だったと思う
 ・パソコンについて

・全部買い換えることに賛成 3
 ・今、買い換えることに不賛成 9
 ・ホームページ等、地方の会員にも数専会の活動がわかるよう、数専会専用のパソコンを充実させるため 1

・2台買い換えていく
 勉強会用のパソコンは使用する者が各自ノートパソコンを持ち込む当分は現在のパソコンで十分であるから、使用する毎にお金を出して積み立て新しいパソコンを買う様にする等、方法を考える

・若し人達に数専会をアピールするために使う、例えば在学生に奨励金を出す等
 ・基金の用途は、広く皆の意見を聞いて考えて行く

編集後記

今年は天候不順で、9月に厳しい暑さとなりましたが、会員の皆様如何過ぎられましたでしょうか?
 今年の数専会だよりは、多くの方から原稿を戴き、一層充実した内容となりました。今後とも様々なご意見をお寄せ下さい。

「発行人」

東京女子大学同窓会数専会

会長 高橋 美保子

TEL FAX x x x x x x x x x x
 x x x x x x x x x x
 x x x x x x x x x x
 x x x x x x x x x x

(注) 会計報告をご覧になりたい方は、数専会まで、ご連絡ください。